# ラジオ東方８１．？

犬兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ラジオ東方８１．？

【Ｎコード】
Ｎ５０４５Ｙ

【作者名】
犬兎

【あらすじ】
今年の３月に『文学畑、ＩＴ育ち。』にて開局しましたラジオ東方がついに『小説家になろう』さんでも放送スタート！
周波数が気分で変わる。不定期更新な番組編成。スタッフは二人。低予算。下ネタ多し。そんな番組たちはリスナーの皆様の温かい支援と幻想郷の皆様の協力で存続しております。
リスナーからの反応が薄いと番組は即打ち切り。

ラジオ東方を作るのは、ラジオの前のあなたたちです！

＜以下、作者コメント＞
どうも、犬兎です。
当企画は私のブログにて細々と更新していたものなのですが、一回の投稿で可能な文字数制限に悩まされ、思い切ってこちらへ引っ越してきました。
リスナー（要するに読者）参加型のラジオ風な台詞集となってます。小説ではありませんのでくれぐれもご注意を。

＜現在放送中の番組＞
・東方幻想局８１．？
・東方どうでしょう
・ドラバラ～魔理沙の巣

## 東方幻想局８１．？　第十三回『映姫の白黒つけます』　（前書き）

『小説家になろう』での第一回放送はラジオ東方のメイン企画『東方幻想局８１．？』をお送りします。
基本的な内容はブログのものと同様です。

では、よろしくお願いします。

# 東方幻想局８１．？　第十三回『映姫の白黒つけます』

映姫「四季映姫の東方幻想局８１．？～っ！！」

ＢＧＭ：六十年目の東方裁判　～　Ｆａｔｅ　ｏｆ　Ｓｉｘｔｙ　Ｙｅａｒｓ

映姫「長らくお待たせいたしました！　東方幻想無のラジオ番組、東方幻想局でございます！　本日も幻想郷の人間の里特設スタジオから８１．９Ｍｈｚで放送しております」

映姫「そして、今週から『文学畑、ＩＴ育ち』だけでなく、『小説家になろう』さんでも放送がスタートいたしました！」

映姫「えー、当番組は東方Ｐｒｏｊｅｃｔの二次創作である『東方幻想夢』の世界観に基づきまして、主にリスナーの皆様から寄せられたアイデアで進行していきます」

映姫「つまり、この番組を作るのはラジオの前の皆様です。新コーナーや、ラジオ本編での話題はもちろんのこと、番組の存続の決定もリスナーの皆様に委ねられております」

映姫「ちなみに現在お聴きいただいているＢＧＭも、リスナーの皆様の脳内再生でお願いします」

映姫「それでは、前説が長くなってしまいましたが、今週も張り切っていきましょう！」

『四季映姫の東方幻想局、はち・いち・きゅう♪』

＋＋＋＋＋＋

ただいま、ラジオ東方では、ラジオＣＭを作ってみたい方を募集しております。
自分の東方二次創作をラジオで宣伝したいという方は、ラジオ東方までメッセージにてお知らせください。

＋＋＋＋＋＋

『四季映姫の東方幻想局、はち・いち・きゅう♪』

映姫「・・・・・」

映姫「・・・・え？　あ、はいっ！　失礼いたしました！　東方幻想局８１．？は人間の里特設スタジオにて公開生放送にてお送りしております！」

映姫「申し訳ございません。アイキャッチのエロさにびっくりしてしまって」

映姫「録音したときは普通の声だったはずなのに、エコーひとつで変わるものですねぇ、スタッフさん・・・？」

映姫「これ終わった後、ゆっくりお話しましょうね」

映姫「・・・はいっ！　それでは気を取り直して、今週のメインコーナーと行きましょう！」

映姫「東方幻想局８１．？　『映姫の白黒つけます』～っ！！」

映姫「このコーナーは、リスナーの皆様から寄せられた日ごろの悩みなど、白黒つけて欲しいことに対してジャッジを下すコーナーです」

映姫「では、ここからはゲストの方にも登場していただいて、いっちょ、バーンとォ！　進めていきますね」

映姫「今週のゲストはいろいろとグレーゾーンを行く謎の女性。紅魔館メイド長の十六夜咲夜さんです」

咲夜「グレーとは侵害ですね。これは誰がなんと言おうと生乳です」

映姫「そこの話をしているわけじゃないですから！　経歴とか、能力とか、いろいろ謎が多いじゃないですか！」

咲夜「そんなに言うなら直接見てみますか！？」

映姫「・・・言葉が通じないのか、この人には・・・？」

咲夜「さて、冗談はここまでにして、最初のＦＡＸを読みましょうか」

映姫「絡みづらいゲストだなぁ・・・」

映姫「では、一つ目のＦＡＸを・・・ラジオネーム『彰人』さんからいただきました。『最近朝、異常に早く目覚めます』・・・」

映姫「これはいい生活習慣ですね。白」

咲夜「ふふ、果たしてそうでしょうか？」

映姫「はい？」

咲夜「いくら朝早く起きたって、その時間で悪さをしてたらそれは黒ではないでしょうか？」

映姫「な、なんだってー！！　た、例えばどんな悪さを？」

咲夜「家族で一番にトイレに入って朝の一番濃いおしっこをあえて流さない！」

映姫「な、なんという大罪！　次に入った人はなんか妙に黄色くなっているトイレの水を目の当たりにして朝から嫌な気分になりますね！　それは黒です！」

咲夜「新聞配達の人が郵便受けに新聞を入れた瞬間、一気に引き抜く！」

映姫「な、なんて卑劣な！　まさに鬼畜の所業です！　朝、眠い目を擦って新聞を配達してくれる方々に対して、そのような仕打ちをするなんて考えられません！　真っ黒です！」

咲夜「お隣さんに配達された牛乳を勝手に飲む！」

映姫「そ、それは犯罪行為じゃないですか！　もはや人間のすることとは思えません！　お隣のお父さんが、朝一番の牛乳をどれだけ楽しみにしていると思っているのですか！　黒です黒！」

映姫「よ、世の中は私の知らない間にこんなにも罪悪で満ちていたとは・・・恐ろしい」

咲夜「続いて、ラジオネーム『漂流長』さんからいただきました。『朝起きたときに変な気分になります。悶々と』」

映姫「これは私もなりますので白でお願いします」

咲夜「あら、ご自分には随分と甘いのですね」

映姫「だって夢の中でも小町ったら真面目に仕事してくれないんですよ！　せめて夢の中くらい真面目にしててもいいじゃないですか！　どうやったら小町は真面目になってくれるのかとついつい朝から考え事を・・・」

咲夜「・・・・ちっ」

映姫「咲夜さん、今舌打ちしませんでしたか？」

咲夜「四季さま、つかぬことお伺いいたしますが」

映姫「なんでしょう？」

咲夜「非処女ですか？」

映姫「そ、そそそんなことなんで公共の電波で言わなきゃいけないんですか！」

咲夜「だって悶々ですよ！　朝起きたときの悶々なんてひとつしかないじゃないですか！」

映姫「それが私の貞操とどんな関係があるんですか！」

咲夜「朝起きたときに悶々としない人なんてエロいことに飽きた非処女か閉経したクサレＢＢＡだけですよ！」

映姫「各方面で波紋を呼びそうな発言は控えてください！　今週からリスナーが増える可能性があるんですから！」

咲夜「上辺だけ瀟洒に取り繕ったって、いつかボロが出ますよ！　なら、最初っからこんな感じのラジオだって白黒はっきりされたほうがよろしいのではないでしょうか！？」

映姫「妙なトコだけ正論突かないでください！」

咲夜「で！？　処女なんですか！？　それともやり〇んなんですか！？」

映姫「・・・ぐ、ぐれーで・・・」

咲夜「はっきりしない閻魔ですねぇ・・・」

咲夜「とある学園モノでは、嫁も子供もいるって調べがついてますよ。――――そのくせ、幼馴染と怪しい関係だなんて、とんだ性獣じゃないですか、あなた」

映姫「べ、別世界の話を持ち込まないでください！　そんなこと言うならあっちの世界じゃ私はあなたの上司だって事を忘れないでくださいね！」

咲夜「・・・」

映姫「・・・・」

ＢＧＭ：日常坐臥

映姫「ええっ！　もうエンディングの時間ですか！？　あー、はい！　と、いうわけで今週の東方幻想局、いかがだったでしょうか？」

咲夜「当番組ではご意見、ご感想や、新コーナーのリクエスト、司会者への質問やメッセージなど、いろいろと募集しております。気軽に書き込みしてくれて構いませんので、これからよろしくお願いします」

映姫「ただし！　これは小説ではなく、ラジオ番組と言う設定の台詞集ですので、この意図を理解できない方からの感想やメッセージは受け付けませんのでご了承ください」

咲夜「来週も、引き続き私、十六夜咲夜と」

映姫「四季映姫でお送りいたします」

映姫「来週もあなたですか・・・」

咲夜「それは私の台詞ですわ」

二人「それじゃあね、ばいばーいっ！」

## 東方幻想局８１．？　第十三回『映姫の白黒つけます』　（後書き）

ラジオＣＭに関しては、メッセージにて放送して欲しい内容を私に送信していただければ、その内容をそのままラジオ内にて放送します。

自分の小説の宣伝などにご利用ください。

また、新しい番組の提案や、新コーナーのアイデアなどもいただけたら幸いです。

ちなみに、本編中では今週とか来週とか書いてますが、あくまで「次回更新がいつになろうとそれが来週分」ということになっています。基本的には不定期更新ですのでご了承ください。

## 東方どうでしょう・第一回放送（再）（前書き）

どうもです。

ラジオ東方第二回放送は東方どうでしょう。
（再）とあるように、おためし企画としてブログで書いたものの再放送です。
再放送とか言ってますが、地味にところどころ変えてます。
ただ、ブログでは絵文字とか画像とか使っていたので、それが無くなっています。
その辺はご了承ください。

では、どうぞ。

## 東方どうでしょう・第一回放送（再）

まりさ「皆さんこんばんは。東方どうでしょうでございます」

まりさ「えー、初放送と言うことで、この番組がなにをしたいのかから説明しますと、要するに、霊夢をだましてどっかに連れて行っちゃいましょうみたいな番組です」

まりさ「では、第一回をお楽しみください」

東方どうでしょう：第一回

２０１１年５月３０日　９：２４
ラジオ東方スタジオ前

まりさ「はい、始まりました『東方どうでしょう』でございます。えー、当番組は、とある有名な芸能人の方をラジオ東方のスタジオに招きまして、いろんなお話を聞いていこうじゃないかというトーク番組でございます」

れいむ「司会は私たち博麗霊夢と霧雨魔理沙です。よろしくお願いします」

まりさ「さて、当番組初のゲストなんですが、実は、日中は外に出

られない体質のため、今回はこちらから出向いてお話を聞いてこようと思います」

れいむ「第一回からスタジオ使わないんか・・・。スタッフも第一回くらいスタジオで出来る人呼びなさいよ」

まりさ「まあまあ、その代わりすごく豪華なゲストなんですよ？」

れいむ「ほー。この低予算深夜番組に一体どんな大物なんですかい？」

まりさ「なんと！　霊夢さんも知ってる超有名カリスマ『レミリア・スカーレット』さんなんです！」

れいむ「マジか！？　それマジか！？　レミリアってあれでしょ！？　何がカリスマなのかよく分からないカリスマでしょ！？　会えるの！？」

まりさ「はいはい、落ち着いて霊夢くん。――と、いうわけで早速会いに行きましょう」

れいむ「うわー、テンションあがるわー。すげえいい番組じゃない」

まんまと我々の罠に引っかかった博麗霊夢。
もちろん、この企画は嘘である。低予算深夜番組である我々になど、レミリアのギャラを払えるわけがない。
こうして、博麗霊夢をだました我々は、未だ騙されている事にも気付かない彼女を乗せ、人間の里から車で一時間ほど向かった先にある、紅魔館へとやってきた。

２０１１年５月３０日　１０：３２
紅魔館前

まりさ「はい、紅魔館に到着です。その間に霊夢くんには特別な衣装に着替えてもらいました」

れいむ「れみ・りあ・うー☆」

レミリアコスプレ。

まりさ「あはははっ！　それ、微妙に似合いますねぇ・・・」

あや「ばっか・・・ちょ、気味悪いよ霊夢さん！」

れいむ「お前たちがこの格好しろっていったんでしょうが！　レミリアさんの笑い取るために着ろって！」

あや「いやー。これはさすがにレミリアさんもドン引きするんじゃない？」

まりさ「しかし、まあ・・・これはある意味放送禁止でしょう。見てよこれ、前はまともだけどさ。後ろ」

しまってない。

一同「ははははっ！」

あや「サイズ合ってない！　スカートしまって無いじゃん！」

れいむ「あんたらが発注したんでしょーが！　何でサイズ間違えてんの！　先週の会議で服のサイズ教えてって言われたから教えたのに何でワンサイズちっちゃいの発注してんだあんたたちは」

まりさ「見てよこれ、お腹とかやばい」

あや「無駄！　無駄肉！　あんだけ貧乏なのにどうやって肉つけてんだ！」

れいむ「あんたにだけは言われたくないわ！　ディレクターになったからってそんなにぶくぶく太りやがって」

あや「なんだ霊夢くん。そんなにその格好のままでレミリアさんに会いに行きたいのか」

れいむ「ちょ、ちょっと待て！　これはギャグじゃないか！　この格好のままでレミリアさんに会いに行ったら完全に変質者でしょうが！」

まりさ「もう既に門番の方にめちゃくちゃ睨まれてますよ」

めーりん「じー・・・」

睨む門番。

れいむ「やばいって。一回マジで着替えてから行かないと出入り禁止になるんじゃないかい？」

あや「まあまあ。そんなことを気にする必要は無いよ、霊夢くん」

れいむ「何言ってんだい！　あんたたちと違ってね。私はもしかしたらこれから有名人になるかもしれないんだよ！？　それでレミリアさんと競演することになったときに、あのときの変態とか言われたくないっての！」

まりさ「だいじょーぶです。会いませんから」

れいむ「・・・はい？」

まりさ「今回、レミリアさんには会いません」

れいむ「ちょ・・・ちょっと待ってよ魔理沙さん。じゃあなにかい？　私をこんな格好にさせるためだけにここまで連れてきたってーのかい！？」

まりさ「その通りでございます」

れいむ「あはははは・・・。何だこの番組は！？　これじゃ視聴率取れないよ！　第一回で打ち切りかい！？」

まりさ「いえいえ、大丈夫でございます。実を言うと、企画はこれからスタートするんです」

れいむ「なにをやろうって言うのさ？」

まりさ「題して、『東方どうでしょう・サイコロの旅』・・・・ゴールは東方ラジオのスタジオ前。ただし、ここからの行き先は、このサイコロの出た目に従わなくてはなりません」

ここで説明しよう。
サイコロの旅は、サイコロの出た目によって行き先が決定する企画である。
ゴールはここから数キロ離れた人間の里にある東方ラジオの幻想局特設スタジオ前。
我々はここを目指して、旅を続けなければならない。もちろん、旅はゴールにたどり着くまで続く。
しかし、この旅には制限時間が設けられている。
霧雨魔理沙は三日後の１２：００から『魔理沙の部屋』の生放送を控えているのだ。
なんとしてでも、時間内にゴールへとたどり着かなくてはならないのである。

れいむ「サイコロキャラメルって・・・！　せめてちゃんとしたサイコロ用意しろよ！」

あや「もちろん中身はちゃんと空にしてあります」

れいむ「どうでもいいわ！」

まりさ「では、最初のサイコロの行き先発表と行きましょうか」

２０１１年５月３０日　１０：４１
紅魔館前：第一の選択

まりさ「このようなフリップを用意しました」

れいむ「そんなもん用意するならサイコロを買えよ！」

まりさ「まずは一の目から。・・・じゃん」

れいむ「ちょっと接近。車で湖へ」

れいむ「まあ、これはいいほうかも知れませんねぇ」

まりさ「続いて二の目・・・。さらに接近、東方路線バスで妖精の森！」

れいむ「これはかなり近づけるんじゃない？」

まりさ「三の目はこちら。ちょっと離れて地下鉄東方線にて妖怪の山へ」

れいむ「これは引きたくないなぁ」

まりさ「おお、四はすごい！　ラッキー。企画終了！　空飛んで人間の里！」

れいむ「これしかないでしょ！　もう絶対これ行くからね！」

まりさ「五は・・・かなり離れて幻想郷都市間バス『あたい』にて冬山へ」

れいむ「いやいや、これはヤバイ。離れすぎる」

まりさ「六は・・・。絶対当てるな。幻想急行快速『幻想ふうび』で近江へ」

れいむ「ちょ、幻想夢離れた！　ソードマスターさとりの世界でしょそこ！」

ここでちょっと解説。

1の「車で湖」は紅魔館前に広がる湖へと向かう。ほんの僅かではあるが接近したといえる。

2の「東方路線バスで妖精の森」は、湖のさらに先にある妖精の森へ向かうバスにのる。しかし、このバスは半日に一本のみであり、さらに、次のバスが本日最後のバスとなっている。

3の「地下鉄東方線で妖怪の山」は、距離としては現在とさほど変

わりはないが、様々な交通手段の中心地である妖怪の山へ行くのは避けておきたい。

４の「空飛んで人間の里」は、まさしくラッキー。ここでこれを当ててしまうとこれからの番組の取れ高に関わる我々スタッフにとっては諸刃の剣でもある。

５の「幻想郷都市間バス『あたい』で冬山」は、幻想郷最北端エリアにある冬山へと向かう危険な選択。冬山にはさらに別の国へと向かう交通手段も多数存在し、今ここに行くのは避けておきたい。

６の「幻想急行快速『幻想ふうび』で近江」は、５の危険要素をまさしく選択としたようなもの。幻想郷の隣国ではあるものの、ここに行ってしまえば、帰るのはかなり厳しくなるだろう。

れいむ「５と６はやばいでしょ。これやったら大変なことになるよ！？」

まりさ「私としては、もちろん４を当ててほしいところですが」

れいむ「私だってそうだよ！　これはあややには悪いけど、マジで４を当てますよ！？」

あや「まあ、そうなってしまえば・・・この番組も終了と言うことで」

れいむ「あははは・・・そりゃそうだ。だってこのままじゃ私がただコスプレして出てきただけの番組じゃない！」

まりさ「そりゃあ、打ち切り確定でしょう」

れいむ「よーし、じゃあ、遠慮なく行くぞーっ！！」

第一投

まりさ「なにがでるかな、なにがでるかな」

れいむ「それはサイコロまかせよ、とうっ！！」

あや「何が出た何が出た！？」

れいむ「おおっ、これは！」

まりさ「あはははは・・・！」

れいむ「ダメでしょー！　これはー！　当てちゃいけないでしょーっ！！」

まりさ「5！　幻想郷都市間バス『あたい』で冬山！」

あや「最初っから飛ばしてますねぇ、霊夢さん」

れいむ「ちょっとまて！　・・・これ、ホントにいくのかい？」

あや「マジです」

れいむ「いや・・・編集とかでどうにかしない？」

黒霊夢光臨

れいむ「よし、冷静になろう・・・。いくら出せばいい？」

まりさ「あはははは・・・」

あや「ダメです。いくら積まれようと冬山に行きますよ」

れいむ「今五万ちょっとくらいしかないけど、とりあえずこれは受け取ってくれ」

まりさ「ＷＡ☆Ｉ☆ＲＯ・・・。霊夢さん、それはさすがに汚い」

れいむ「ここは一つこれで。里に帰ったらいくらでも用意しよう」

あや「しょうがない。じゃあ、ここは受け取っておきましょう」

れいむ「よし。じゃあ―――」

あや「じゃあ、冬山に行こうか」

まりさ「あはははっ！！」

れいむ「なら返せ」

あや「これは私が個人的に霊夢さんから受け取ったものです。今回の件とは関係ない」

れいむ「おーし、じゃあ出るとこでようか！？　あたしゃ山田の裁判所まで戦うぞ！！」

まりさ「あははは」

あや「あははは・・・山田さんと来たか。おーいいさ！　でも冬山は行くぞ！」

れいむ「マジで勘弁してくれよー・・・・」

まりさ「じゃあ、観念して幻想郷都市間バス『あたい』に乗りましょうか」

あや「バスは紅魔館裏手のバスターミナルから出るそうですよ」

まりさ「じゃあ、霊夢くん。出発しようか」

れいむ「とんだバカ番組だよ！　これは！」

れいむ以外の三人「はははははっ」

次回予告

れいむ「あはははっ！　なんでそーなる！！」

まりさ「寝台特急『ひまわり』で太陽の畑・・・」

あや「どうします？　もう幻想郷を十字に切りそうな勢いですけど」

れいむ「もーこうなったら地獄にでも何でも行ってやりましょうか？」

そして、衝撃の選択・・・。

まりさ「あやや、お前、幻想郷に帰す気ないだろ？」

＋＋＋＋＋

まりさ「えー、どうだったでしょうか、初放送にて初ドッキリは無事成功しました。果たして僕らは無事にスタジオまで帰ってこれるのでしょうか？　では、来週もお楽しみに」

れいむ「・・・・見てねっ！」

四人「ははははっ！！」

## 東方どうでしょう・第一回放送（再）（後書き）

どうでしょうが神奈川でも見れることに驚いた。
さらには北海道とは一年送れ状態とはいえ、１×８とか、ブギウギ専務まで・・・。

神奈川県は北海道民に優しいようです。
さて、次回は新番組を予定しています。
北海道民くらいしかわからないと思われるローカル番組のパロです。

では、次回もよろしくです。

## ドラバラ～魔理沙の巣・第一回放送（前書き）

どうもです。
今回は恐らく北海道のみで放送していたと思われるドラバラのパロ。
知らない人が多すぎると思われるが、私が大好きなのでやる。

ドラバラネタを持ってきてもウケ悪そうなので、本物のドラバラの雰囲気だけパロって、残りはいつものラジオ東方のノリで展開します。

本物の名前を使いすぎると怒られそうなので色々ともじってみたりした。
分かりにくかったら申し訳ない。

## ドラバラ～魔理沙の巣・第一回放送

ドラマとメイキング映像をバラエティとして放送する異色のバラエティ番組、『ドラバラ～魔理沙の巣』は深夜の低予算番組の限界に挑んでいく。

番組の演出を手がけるのは、皆さんもご存知、マスターことクリエイティブオフィス？の霧雨魔理沙。そして、ＴＥＡＭＭＩＸのメンバー、博麗霊夢と東風谷早苗である。

ドラバラ魔理沙の巣の放送スタートに際し、オフィス？の面々にはそれぞれ、様々な企画と脚本を用意してもらった。その、第一回企画会議の模様をごらんいただきたい。

まりさ「えー、というわけでドラバラ魔理沙の巣が始まるわけだけど。これさ、正直無茶振りでしょ」

あやや「何言ってるんですか。あんたがやりたいって言ったから番組の枠用意したってのに」

まりさ「まあね。そうなんだけどね。そんなわけで、脚本書いてきたんだけどさー」

れいむ「どんな企画？」

まりさ「えーっと、第一回目だということで、あくまで分かりやす

く」

れいむ「分かりやすく」

まりさ「子供に見せたい番組を目指して」

さなえ「目指して」

まりさ「さらには最近人気のご当地ヒーロー物。コレは数字取れる」

あやや「数字・・・っ！」

まりさ「はいキタコレ！　ＺＵＮ楽戦隊ブラックホワイトーズ（以下ＢＷ）！」

れいむ「・・・」

さなえ「・・・」

あやや「はい、じゃあ霊夢さんの企画を見せて―――」

まりさ「ちょっと待て！　無視することないだろ！」

れいむ「それ前やったじゃん！　もういいだろそれ！」

まりさ「今度は本格的に作るんだって！　ちゃんとした企画だから！」

さなえ「・・・」

れいむ「また全身タイツでやるのー？　えー、今、冬じゃん」

まりさ「いやいや、視聴者待ってるから！　絶対数字取れるし！」

あやや「・・・数字が取れるというのなら採用で！」

ようむ（ＭＩＸメンバー）「ちょ、横暴！」

さくや（ＭＩＸメンバー）「・・・今回の私たちの出番コレだけですか、そうですか」

まりさ「じゃあ、ＺＵＮ楽戦隊ＢＷで決定ということで」

れいむ「どうせ最初っから決まってたんでしょー。もーどーでもいー」

さなえ「・・・・」

ありす（ＭＩＸメンバー）「早苗、どうかした？」

さなえ「・・・私、また全裸ですか？」

まりさ「数字取れるし」

あやや「数字取れるなら仕方ない」

さなえ「ちょ！　前にも私、恥ずかしい映像放送されたんですけど！？　今回もですか！？」

れいむ「モザイクの奴？」

さなえ「そうですよ！　テレビでＸＸコ（放送禁止用語）の手術を放送なんてありえないでしょう！？」

＋＋＋過去映像＋＋＋

さなえ「うわ。血、ドバドバ出てる」

＋＋＋過去映像終わり＋＋＋

れいむ「その後のファンサービスはレベルが高すぎた・・・」

さなえ「それ知ってるリスナーいるんですか！？　っていうかこのネタ分かる人は全国規模でどれだけいるんですか！？」

あやや「数字取れるなら仕方ない」

さなえ「お前は黙ってろっ！！」

ＺＵＮ楽戦隊ＢＷは、かつてテレビ東方のとある番組の一コーナーとして何回か放送されたことがある。しかし、放送は僅か数回にとどまったため、魔理沙は今回、本格的な撮影と放送を行いたいらしい。

まりさ「そんなわけで、本格的な撮影に入るためにも、準備がいろいろとねー必要なわけで」

さなえ「私はスルーですか！？」

まりさ「まずＺＵＮ楽演奏用の楽器だね」

あやや「高いから却下で」

まりさ「ちょ、変身できない！」

あやや「いらんいらん。マジでいらん。どうせ用意させてもお前らＺＵＮ楽詳しくないから楽器を間違えて練習のときに恥かくオチに決まってる」

れいむ「まるでどこかで見てきたかのような言い草ね」

あやや「外の世界で似たような企画やってた人いたけど、案の定通販で間違えて買ってきて、ただでさえ少ない予算を食い潰してたから、我々はそんな間違いしません」

れいむ「ただその辺のくだりが面倒になっただけじゃないの？」

あやや「というわけで、演奏は彼らに任せることにしました」

ルナサ「ルナサでーす」

リリカ「リリカでーす」

メルラン「メルランでーす」

三人「三人合わせて、プリズムリバーーーー」

さなえ「くだらないパロディーはよろしい」

三人「・・・・」

れいむ「機嫌悪いなー、早苗・・・」

あやや「よっぽど全裸が嫌なんですねぇ・・・」

彼女たちはオフィス？期待の新人アーティスト『プリズムリバー三姉妹』・・・。今回のＺＵＮ楽の演奏と、テーマソングの製作を担当する。

ルナサ「きゃ、キャラにあわないことするもんじゃないわね・・・」

れいむ「どったの？」

ルナサ「だいじょーぶ。ただの過呼吸・・・」

れいむ「大丈夫じゃないって」

ルナサ「――――あ」

れいむ「ちょっと奥で休ませてくるわね」

るなさ「あ、ありがとうございます・・・」

早苗&魔理沙「いけないフラグの立つ音がしたっ！！」

あやや「レイルナとか・・・ちょー需要なし・・・けらけら」

れいむ「ただいまー・・・って、何この不穏な空気」

リリカ「ひとまずお姉ちゃんはもう帰ってこないほうが身のためってことでオーケー」

まりさ「というわけでー、ＺＵＮ楽で変身するわけでー」

れいむ「急にやる気なくなってるわね・・・」

まりさ「撮影は一週間後！　以上！」

れいむ「・・・」

さなえ「・・・ん？」

あやや「・・・・あや？」

れいむ「ちょ！　配役も決めていないうちからもう撮影なの！？」

まりさ「配役は既に台本に書いてある！　もーどーでもいーっ！　解散！」

れいむ「ちょ！　丸投げするなーっ！！！」

こうしてＺＵＮ楽戦隊ＢＷの第一回企画会議は魔理沙の横暴とフラグ成立を持って終了した。既に脚本と配役が決定していることもあり、その後の会議もスムーズに進んで行き、一週間後の撮影開始となったのだ。

ここで、第一回の企画会議で語られなかったＺＵＮ楽戦隊ＢＷのあらすじと配役を説明しよう。

ＺＵＮ楽戦隊ＢＷは、その名のとおりＺＵＮ楽を奏でることで正義のヒーロー『ブラックホワイトーズ』へと変身するヒーローのこと。彼らは幻想郷の中でも魔理沙の家の近所のみで戦うという最近流行のご当地ヒーローで、人間の里の悪の秘密結社と戦うというストーリーだ。

主役となるＢＷの三人は前作から引き継いで魔理沙、早苗、アリスの三人。敵となる悪の秘密結社のボスは魔理沙が二役で演じる。

そして、霊夢は今回から初登場となる謎のキャラクターを務める。

それでは、ついに次回放送開始となるドラバラ～魔理沙の巣、第一回企画『ＺＵＮ楽戦隊ＢＷ』の予告編をごらんいただきたい。

突如、魔理沙の家の近所で発生した毒ガス事件に巻き込まれた早苗。彼女を助けたのは謎の女性、霊夢。魔理沙の家の近所の征服をもくろむ悪の秘密結社がいると告げられた早苗は、彼女と共に、悪の秘密結社の戦闘員と戦うのだった・・・っ！

ＺＵＮ楽戦隊ＢＷ第一話『魔理沙の家の近所に忍び寄る黒い影』！！

ご期待ください。

## ドラバラ～魔理沙の巣・第一回放送（後書き）

まさに誰得。

そして、早苗さんが平成の怪物こと安田さんなところが特に問題。Xんげは剃ったのか。そして、露出するのか。早苗さんは大変だぁ・・・。

そして、謎のいけないフラグ。レイルナってマジで需要あるのか・・・？

では、次回もよろしくです。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5045y/

ラジオ東方８１．？

2011年12月14日00時47分発行